

# あすなろ学園とは

あすなろ学園は、知的障がいの子どものための生活訓練を主体とした施設です。起床から登校までの間にそれぞれの場面に応じた生活技能の反復した訓練を行い、下校から就寝までの間に同様の生活学習のほかに、各種の感覚・情緒・遊戯訓練・治療を加味したプログラムを出来るだけ自然な形で生活の中にも含ませる設定をし、知的障がいに加えて他の機能障がいを併せ持っている子どもたちの支援にも努力しています。子どもたちの毎日の生活を明るく楽しく、そして目的にあった指導性を守りながら、学園生活を送れるように願っています。

## あすなろ学園沿革

昭和32年 4月15日	設置者大友淑江により、福岡県田川郡大任村(現、町)に15名の知的障害児童を預かり私塾を開塾する。
昭和32年 7月 3日	養護学校設立認可を受け、小学部、中学部を設置。定員30名で、秋田、東京、大阪、熊本等の遠方者を含め全寮制のあすなろ学園養護学校として開校する。寮を設けて24時間の生活教育を一環とするのは全国で初めての学校であった。
昭和32年 9月 3日	学校設置地域が、筑豊炭田の地盤沈下等の鉱害のために、圍合陥没の危険が発生したため、寺院の本堂、海水場の冬季使用されない臨海学校、宗教団体の建物等を借りながら、約8ヶ月間に亘り転居を繰り返す流浪の期間を経る。
昭和33年 4月 5日	小倉市大字高津尾(現、北九州市小倉南区)に所在する小倉南高等学校中谷分校廃校跡地を買収し流産が終着する。児童3名、職員2名で再出発となる。
昭和39年 8月 1日	早稲田大学奉仕団と国際フレンドワークキャンプ福岡委員会の学生を中心とした1ヶ月の奉仕活動により、学園への取付け道路が開通する。
昭和40年 7月20日	「夢のブロック運動」の募金により、国際フレンドワークキャンプ福岡委員会の大学生の長期宿泊奉仕活動により、園庭整備、便所改築等がなされる。
昭和40年 9月10日	地元、東洋メタル株式会社の重機奉仕により運動場が開墾開場される。
昭和41年 5月10日	第1回運動会を新運動場にて開催する。
昭和41年10月10日	後援会の援助により初の修学旅行(阿蘇・熊本・天草方面)を実施する。
昭和42年 4月 1日	北九州13ライオンズクラブの協力事業で男子居住棟(木造平屋、99㎡)が寄贈される。
昭和42年 4月31日	小倉ライオンズクラブ創立3周年記念事業として、自家水用の井戸ボーリング工事が寄贈され、毎時2.4トンの湧水を確保、水不足が解消される。
昭和42年 5月31日	私学経営の経済的基盤となる学費・寮費等の未納者の増大により、経営が行き詰まり閉校に至る。
昭和42年 6月 1日	私学時代の各種の寄付寄贈による基本財産の蓄積がなされたため、社会福祉法人の認可を受け、「社会福祉法人あすなろ学園 知的障害児施設あすなろ学園(定員30名)」として開設する。児童は地元の長行小学校・晋生中学校養護学級に通学することになる。
昭和43年 6月 1日	あすなろ学園父母の会が発足する。
昭和46年12月25日	日本自転車振興会の補助事業により、新園舎(鉄骨3階建、903㎡)が落成する。同時に定員53名に増員する。
昭和47年 7月25日	大雨のため学園登り口の道路が決壊し3ヶ月間通行が困難になる。中央競馬会の補助事業により改修する。
昭和47年 9月 1日	北九州市立小倉南養護学校に通学を開始する。
昭和47年12月 1日	第一回芸術祭を開催する。
昭和49年 7月 1日	九州自動車道の小倉南インターチェンジ用地となり、日本道路公団と学園の移転補償契約を締結する。
昭和50年12月 9日	児童施設「あすなろ学園」は、園舎(鉄骨一部3階建、1,199㎡)を小倉南区新道寺1100番地に移転し、落成式をする。
昭和51年 5月 1日	作業棟Aプレハブ造・76㎡(谷伍平・元北九州市長寄贈)、作業棟Bプレハブ造・76㎡(中央競馬会寄贈)の2棟完成する。
昭和51年 9月 1日	日本自転車振興会補助事業により、知的障害者更生施設「母原更生センター」(鉄骨3階建、1319㎡)が落成し、定員57名で開設する。
昭和54年 5月 1日	隣の市有地2,899㎡の借地契約をし、農耕実習地とする。
昭和55年10月 1日	ベルマーク運動100万円突破で教育設備助成会より表彰される。
昭和55年11月 3日	第一回スペシャルオリンピック九州地区大会(福岡市・平和台競技場)に参加する。
昭和57年 5月 1日	父母の会有志(30名)による「母原会」が発足し、第二更生施設(高齢者対策施設)の資金積み立てを始める。
昭和59年 1月31日	日本自転車振興会の補助事業により、成人施設の木工棟(鉄骨2階建、326㎡)を新築する。
昭和60年 5月20日	夕刊フクニチ新聞厚生事業団より、マイクロバスの寄贈を受ける。
昭和61年12月10日	小倉南ライオンズクラブ寄贈により、学園旗を製作する。
昭和61年12月26日	日本自転車振興会の補助事業により、児童・成人検合併浄化槽(150人槽)を設置する。
昭和63年11月 1日	成人棟利用者ご家族より隣地1,320㎡の購入資金の寄付がある。
昭和63年11月15日	学園創立30周年の記念式を行う。

平成 2年10月17日	母原会より、作業棟の寄贈がある。
平成 4年10月 6日	母原会より、隣地363.63㎡の購入資金の寄付がある。
平成 4年10月16日	日本自転車振興会の補助事業により、成人棟にスプリンクラーを設置する。
平成 5年 8月21日	北九州市の障害者施設入所者全員対象の、タイムカプセルを本園に埋設する。「タイムカプセル20世紀号(西暦2013年開封)」児童・成人施設合同芸術祭が終焉する(約25年間開催)。
平成 6年 2月27日	児童・成人施設合同芸術祭が終焉する(約25年間開催)。
平成 6年 8月12日	歴代の学園退職職員による「第一回職員OB会」を開催する。
平成 7年 1月31日	学園創始者 大友淑江理事長逝去(82歳)、学園葬にて送別する。
平成 7年 9月 9日	スペシャルオリンピック日本の第一回(熊本)全国大会に代表選手が参加する。
平成 7年10月 1日	北九州市主催、「第一回こころのふれあいコンサート」に全員で参加する。
平成 8年 1月30日	児童棟スプリンクラーを設置する。
平成 9年 3月23日	第一回就職児・者OB会を開催する。
平成 9年 8月25日	児童・成人棟の防災設備を新機材へ全面改修する。
平成 9年11月16日	北九州市に於いて開催された、第一回全国知的障害者マラソン大会に代表選手が参加する。
平成10年 3月 2日	全電通・北九州支部労組によるマッチングギフト基金より、軽自動車1台の寄贈を受ける。
平成11年 1月14日	全電通・北九州支部労組によるマッチングギフト基金より、マイクロバス購入資金の一部補助金の寄付を受ける。
平成12年 5月 1日	全電通・北九州支部労組によるマッチングギフト基金より、普通自動車1台の寄贈を受ける。
平成13年 4月12日	全電通・北九州支部労組によるマッチングギフト基金より、給食管理用電子計算機と大型乾燥機の寄贈を受ける。
平成14年 3月25日	全電通・北九州支部労組によるマッチングギフト基金より、ITLAN設備資金の寄付を受ける。
平成16年 4月 1日	北九州市立門司障害者地域活動センターの運営管理を委託する。(知的障害者入所更生施設、知的障害者通所授産施設、精神障害者通所授産施設、身体障害者デイサービス)
平成18年10月 1日	障害者自立支援法の一部施行に伴い、「児童施設「あすなろ学園」において、施設の利用形態が「措置」と「契約」に分かれる。
平成18年12月31日	中央競馬馬主社会福祉財団・九州馬主協会による助成事業により、母原更生センターに調理食材料保管用倉庫(軽鋼鉄造 30.71㎡)を竣工する。
平成19年 1月 1日	北九州市立門司障害者地域活動センター通所部門において、身体障害者予イサービ事業を障害者自立支援法に基づく生活介護事業へ一部移行する。
平成19年 1月16日	成人棟利用者ご家族より法人への遺贈寄附を受ける。
平成21年 3月30日	大阪府社会福祉協議会「みなみの障がい児施設助成金」の交付決定を受け、児童棟の階段手摺柵、トイレ、浴槽、木製棚などの改修工事を実施し、1階を女性、2階を男性と居住域を分けると共に、職員室を2階へ移動し、1階の旧職員室をショートステイ専用の活動域とする。
平成21年 4月 1日	北九州市立門司障害者地域活動センター通所部門が、障害者自立支援法の新体系事業へ移行する。(就労移行支援事業、就労継続支援事業(B型)、生活介護事業)
平成23年 1月25日	財団法人中央競馬馬主社会福祉財団・九州馬主協会による助成事業により、母原更生センターに車イスリフトアップ型福祉車両(日産キャラバン チェアキャブ)を導入する。
平成23年 2月25日	母原会からのご寄付により、母原更生センターの利用者の高齢化・機能低下と施設の老朽化対応の一環としてトイレ・風呂・洗面所の改修が完了する。
平成23年11月21日	財団法人JKA(競輪・オートレースの振興法人)による助成事業により、門司障害者地域活動センター入所部門に福祉車両(トヨタラクティス)を導入する。
平成24年 4月 1日	母原更生センターが、障害者自立支援法の新体系事業へ移行し、名称を「障害者支援施設 母原」と変更する。(生活介護事業・施設入所支援事業)

母原会より、作業棟の寄贈がある。  
母原会より、隣地363.63㎡の購入資金の寄付がある。  
日本自転車振興会の補助事業により、成人棟にスプリンクラーを設置する。  
北九州市の障害者施設入所者全員対象の、タイムカプセルを本園に埋設する。「タイムカプセル20世紀号(西暦2013年開封)」児童・成人施設合同芸術祭が終焉する(約25年間開催)。  
歴代の学園退職職員による「第一回職員OB会」を開催する。  
学園創始者 大友淑江理事長逝去(82歳)、学園葬にて送別する。  
スペシャルオリンピック日本の第一回(熊本)全国大会に代表選手が参加する。  
北九州市主催、「第一回こころのふれあいコンサート」に全員で参加する。  
児童棟スプリンクラーを設置する。  
第一回就職児・者OB会を開催する。  
児童・成人棟の防災設備を新機材へ全面改修する。  
北九州市に於いて開催された、第一回全国知的障害者マラソン大会に代表選手が参加する。  
全電通・北九州支部労組によるマッチングギフト基金より、軽自動車1台の寄贈を受ける。  
全電通・北九州支部労組によるマッチングギフト基金より、マイクロバス購入資金の一部補助金の寄付を受ける。  
全電通・北九州支部労組によるマッチングギフト基金より、普通自動車1台の寄贈を受ける。  
全電通・北九州支部労組によるマッチングギフト基金より、給食管理用電子計算機と大型乾燥機の寄贈を受ける。  
全電通・北九州支部労組によるマッチングギフト基金より、ITLAN設備資金の寄付を受ける。  
北九州市立門司障害者地域活動センターの運営管理を委託する。(知的障害者入所更生施設、知的障害者通所授産施設、精神障害者通所授産施設、身体障害者デイサービス)  
障害者自立支援法の一部施行に伴い、「児童施設「あすなろ学園」において、施設の利用形態が「措置」と「契約」に分かれる。  
中央競馬馬主社会福祉財団・九州馬主協会による助成事業により、母原更生センターに調理食材料保管用倉庫(軽鋼鉄造 30.71㎡)を竣工する。  
北九州市立門司障害者地域活動センター通所部門において、身体障害者予イサービ事業を障害者自立支援法に基づく生活介護事業へ一部移行する。  
成人棟利用者ご家族より法人への遺贈寄附を受ける。  
大阪府社会福祉協議会「みなみの障がい児施設助成金」の交付決定を受け、児童棟の階段手摺柵、トイレ、浴槽、木製棚などの改修工事を実施し、1階を女性、2階を男性と居住域を分けると共に、職員室を2階へ移動し、1階の旧職員室をショートステイ専用の活動域とする。  
北九州市立門司障害者地域活動センター通所部門が、障害者自立支援法の新体系事業へ移行する。(就労移行支援事業、就労継続支援事業(B型)、生活介護事業)  
財団法人中央競馬馬主社会福祉財団・九州馬主協会による助成事業により、母原更生センターに車イスリフトアップ型福祉車両(日産キャラバン チェアキャブ)を導入する。  
母原会からのご寄付により、母原更生センターの利用者の高齢化・機能低下と施設の老朽化対応の一環としてトイレ・風呂・洗面所の改修が完了する。  
財団法人JKA(競輪・オートレースの振興法人)による助成事業により、門司障害者地域活動センター入所部門に福祉車両(トヨタラクティス)を導入する。  
母原更生センターが、障害者自立支援法の新体系事業へ移行し、名称を「障害者支援施設 母原」と変更する。(生活介護事業・施設入所支援事業)  
北九州市立門司障害者地域活動センター入所部門が、障害者自立支援法の新体系事業へ移行する。(生活介護事業・施設入所支援事業)  
あすなろ学園の施設種別が児童福祉法の改正により「障害児入所施設」へ変更となる。



※西鉄バス 快速「田川後藤寺」行 乗車し、「石原鉄工団地」バス停下車 徒歩10分  
 ※JR日田彦山線「石原町」駅下車 徒歩15分、タクシーで5分程度  
 ※九州自動車道 小倉南インターチェンジより降りて田川方面へ(国道322号線)  
 「東大野八幡神社前」信号交差点(特別養護老人ホーム「美咲が丘」看板目印)を左折

## 社会福祉法人 あすなろ学園

〒803-0186 北九州市小倉南区大字新道寺1100番地1

TEL.093-451-1031

FAX.093-451-3530

HP / www.asunaro4261.com

あすなろ学園 北九州

**社会福祉法人 あすなろ学園 経営施設**

**障害者支援施設 母原**  
 〒803-0186 北九州市小倉南区大字新道寺1100番地1 TEL.093-451-1031 / FAX.093-451-3530

**門司障害者地域活動センター【北九州市指定管理】**  
 〒800-0112 北九州市門司区大字畑1808番地 TEL.093-481-1915 / FAX.093-481-1023



障害のある人すべての人々が  
 地域で安心して暮らすことができる  
 社会の実現を目指して



ほむさむくん

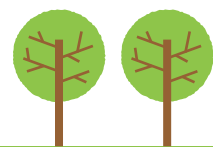


社会福祉法人

# あすなろ学園



おびじんちゃん



# 社会福祉法人 経営理念

ハンディキャップを持たれた方たちの個性と自己決定を大切に、自立した人格と個人の尊厳を守りながら、自立した生活への適切な支援を行い豊かな環境をつくります。民営の特性を活かし、家族・地域住民・NPO・ボランティアと協力連携し、地域福祉の拠点施設として貢献いたします。

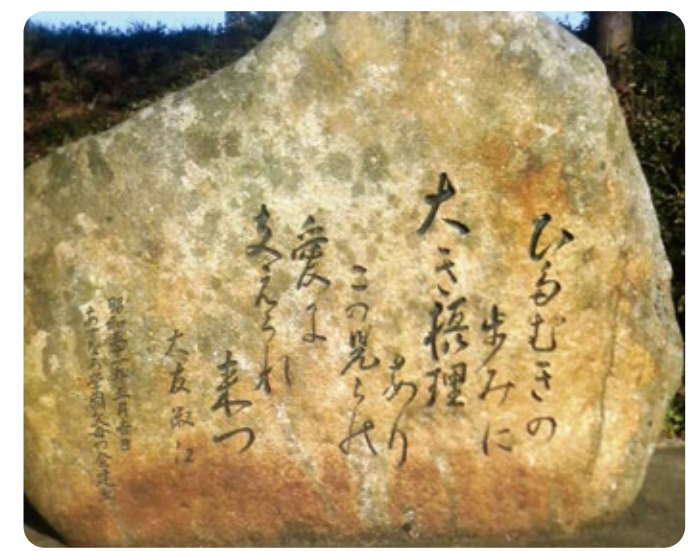
# 社会福祉法人 基本方針

利用者の方たちと職員は、次の基本方針を守り、共に努力します。

- 1 自立・自律**  
自分のことは自分でする。
- 2 自活・更生**  
人に頼らない。
- 3 誠心・実直**  
正直な心を持つ。
- 4 友愛・連帯**  
友達と仲良くする。
- 5 就業・従業**  
働くことを喜ぶ。
- 6 権利・義務**  
自己決定を大切に。
- 7 住民・市民**  
(利用者・支援者) 地域の一員として生きる。

## どうして「あすなろ」はつくられたか

どんな知的障がいの子でも、決して侵されてはならぬ人格があります。小さければ小さい魂ほどに、たとえどんな小さな傷すら、それは大きな痛みとなってその魂を苦しめるのではないのでしょうか。本来人間は、純なる魂をもった命としてこの世に生をうけるのですが、その魂が歪められるのも、人間相互がもたらすものではないのでしょうか。現実に、この子らに対するあつかいは、社会にあってはなおのこと、家庭にあっても、決していつも平等であるとは言えないのです。能力が低いということは生存競争の社会にあっては、致命的な欠陥であります。いつも小言を言われたり、叱られていたり、いじめられたのでは自信がなくなるところか、暗い劣等感をあたえたり、性格すらゆがめてしまうのです。どんな知的障がいの子でも、とりまく環境がその力を阻まなければ、強く生きていこうとする力が溢れているのです。あすなろ学園は、こうした複雑な環境に生きていこうとしている知的障がいの子らに対して、彼らが周囲に気兼ねなく自由にのびのびと自分の力を発揮していけるように、学校という限られた時間での教育ではなく24時間子供と指導員が生活を共にする中



# 施設紹介

**1F** 会議室、職員室、応接室、面談室、湯沸室、作業室、理事長室、事務室、エレベーター、階段

**2F** 女の子のお部屋 (部屋名: チョーリップ、ひまわり、すずらん、はら、ダイヤルム、食堂、洗面所、浴室、職員ステーション、医務室、すみれ、たんぽぽ、エレベーター、階段)

**3F** 男の子のお部屋 (部屋名: とんぼ、くわがた、かまさり、かぶとむし、ダイヤルム、ちようちよ、たんとうむし、ほろ、エレベーター、階段、洗面所、浴室、職員ステーション、静養室、さりざりす、すずむし)

**4F** 倉庫・屋上

女の子のお部屋の名前にはお花の名前をつけているよ

男の子のお部屋の名前には昆虫の名前をつけているんだ

## 行事紹介

- 4月 進級祝い
- 5月 ドライブ外出
- 5月 レクリエーション大会
- 5月 障害者スポーツ大会
- 6月 ソフトバレーボール大会
- 7月 セタ祝い
- 7月 レクリエーション海水浴
- 8月 レクリエーションキャンプ
- 8月 紫水盆踊り
- 8月 流しそうめん
- 8月 ふれあいコンサート
- 10月 門司活祭り
- 12月 キャンドルサービス
- 2月 節分
- 3月 平尾台クロスカンントリー
- 12月 クリスマス会